

月影



第50号

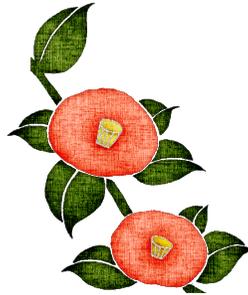
平成二十六年十二月発行

浄土宗西山禅林寺派

常林院

求不得苦

釈迦



『求めても
得ることが
できない苦しみ』

人の欲には果てがなく
決して満足することはない

求めても得られず
願っても叶わず

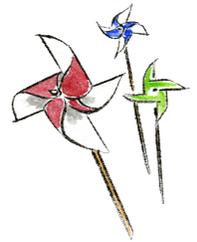
欲の数だけ苦しみが生まれる

足るを知る者だけが

苦しみから逃れられる

四苦八苦の一つ

無財の七施



無財の七施

無財の七施とは、「財」

ではなく、「心」を他人に施す七つの布施のことです。

① 眼施
『無財の七施』
やさしいまなざしをする。

② 和顔施
いつもおだやかな顔をする。

③ 言辞施
いたわりの言葉をかける。

④ 身施
親切な行いをする。

⑤ 心施
やさしい心で接する。

⑥ 牀座施
すすんで席をゆずる。

⑦ 房舎施
家でゆっくり休んでもらう。

これら七つの布施は、いつでもどこでも誰にでもできる布施の行です。与えることの大切さに気づかされたお話でした。

次回、春の彼岸法要は三月春分の日です。皆様のお参りをお待ちしております。

九月の秋分の日、当寺の秋の彼岸会を勤めました。檀信徒の皆様にはご多用中お参り頂き、誠に有り難うございました。

お説教は、福井県安泰寺名誉住職、佐々木憲乗師にお越し頂きました。分かりやすい言葉で丁寧ていねいに、そして楽しくお話しされ、充実した時間となりました。

話の内容は、誰もが普段の生活で実践できる「無財むざいの七施しちせ」についてお話しくださいました。



仏事の作法

大塔婆の文字

法事を勤める時、大塔婆をお墓に建てます。この塔婆の上部には五つの文字が書いてあります。この文字は梵字（サンスクリット語）といえます。読み方は、上から、キャ・カ・ラ・バ・アと読み、仏教的宇宙の五大元素の、空（キャ）・風（カ）・火（ラ）・水（バ）・地（ア）を表しています。

また、塔婆の上部の五つのくびれは五重の塔と同様、ストゥーパ（舍利塔：骨を納めた塔）を表し、次第に、ストゥーパ↓卒塔婆↓塔婆と呼ぶようになりました。



キャ
カ
ラ
バ
ア

あれこれ

仏教用語

いろは歌

いろは歌は色は白へど散りぬるを
我が世誰ぞ常ならむ
有為の奥山今日越えて
浅き夢見じ酔いもせず

いろは歌は発音の異なる仮名四十七字を七五調四句の歌にしたものとして有名です。これは「涅槃経」の四句の偈を和訳したものです。昔から、手習いの手本とされたり、親しみのある歌です。古くから弘法大師の作だと伝えられています。



常林院だより

山門、墓地入口門

改築工事

この度、老朽化に伴い、山門と墓地入口門を改築することになりました。工事期間中は皆様に変動が不便をおかけ致しますが、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願致します。

◎工事期間

平成二十七年三月上旬まで

旧山門撤去

山門工事が始まりました。旧山門は、そのままの姿でクレーンに吊られ、トレーラーで運ばれて行きました。残念ながら、解体された山門の中には、いつ誰か建てたのか等、山門に関する記録は見つかりませんでした。



トレーラーで運ばれる旧山門

雑記抄

く支えられる寺く

常林院は、江戸時代、寛文三年（1663年）に開山しました。今から351年前のことです▼以来、当寺は、少しずつ姿形を変え、江戸・明治・大正・昭和・平成という五つの時代を乗り越えてきました▼各時代には、それぞれに様々な苦労があったことと思われまます。その都度、その時代の檀信徒の皆様を支えられ、今日

までその姿を残すことができませんでした▼へ檀信徒なくして寺はなく〜お寺というもの、支えられなければ倒れてしまいます。支えられていゝることに感謝をしながら、これからもしっかりしていきたく思います。



旧常林院 昭和38年以前